

競 技 注 意 事 項

1. 規 則

競技は2024年度（公財）日本陸上競技連盟規則及び本大会要項、申し合わせ事項によって行う。

2. 練 習

- ①練習は危険防止に十分注意して行う。競技場内もしくは競技場外園路とする。（公園側園路は禁止。）
- ②会場への投てき物の持ち込みは禁止とし、練習は現地集合完了後、役員の指示により競技場で行う。
- ③トラック競技開始時刻の15分前までは競技場を開放する。
- ④フィールド競技の練習は、役員の指示により競技場で行う。
- ⑤雨天走路は、ウォーミングアップ場として開放する。

3. 招 集

- ①招集は競技者係の指示に従い、本人が受けること。
- ②招集時間および完了時間は下記の通りとする。

種 目		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		競技開始30分前	競技開始15分前
フィールド 競技	走高跳・走幅跳・砲丸投	競技開始45分前	競技開始30分前
	棒高跳	競技開始60分前	競技開始50分前

- ③招集完了時刻（移動開始時刻）に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権とみなして処理する。
- ④競技者は、招集開始時刻から招集所において最終確認を受ける。その際、アスリートビブス、競技用シューズ、衣類の点検を受け、そのまま待機し、招集完了時刻に移動開始する。
- ⑤トラック種目の競技者は、競技者係から腰ナンバーカードを受け取り、右尻部につけること。（リレー競技は第4走者のみ）
- ⑥出場する種目を棄権する場合、招集開始時刻までに、競技者係（招集所）に申し出ること。
- ⑦複数種目を兼ねて出場する場合には、その旨を競技役員に申し出ること。
- ⑧ウォーミングアップ中のケガ等により棄権をする場合にはTICに棄権届を提出すること

4. 入 退 場

- ①招集が完了した者は、スタート地点（ピット）に荷物をもって移動する。
- ②トラック競技はレース終了後、第1ゲートから退場するか、器具庫から室内を通り雨天走路へ退場する。（本部前は競技役員の指示がない限り、通行することはできない。）
- ③小学生の競技者は、競技終了後、引率者（保護者）と競技場の正面入口で合流し解散とする。
- ④フィールド競技は、終了後競技役員の指示に従い、フィールドから退場する。
- ⑤競技終了後、腰ナンバーカードをゴール地点にあるカゴに入れる。

5. アスリートビブス

- ①1部に出場する者は、JAAF登録されたアスリートビブスを使用する。2部で所有していない者は仮ゼッケン（千葉市陸上競技協会指定の番号を記載したゼッケン）を使用する。
- ②アスリートビブスは胸（腹ではない）と背に、しわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。ただし、跳躍競技については1枚を胸または背のどちらかにつけるだけでもよい。

6. トラック競技について

- ①1000m以上の種目は全てタイムレースとする。
- ②中学生のレースは、ハードル競技を含む800m以下の種目はラウンド制とする。

7. フィールド競技について

- ①走高跳・棒高跳を除くフィールド競技は、3回の試技を行い、記録上位8名でさらに3回行う。（中学生のみ）
- ②リレーと兼ねて出場する競技者は、競技者係および当該種目審判員主任に申し出をし、その指示に従うこと。ラウンド中の試技順の変更は当該種目審判員主任の指示によるが、次のラウンドに移った場合は、パス扱いとする。申し出を怠った競技者は棄権とみなす。
- ③棒高跳支柱移動申告について、競技者は競技開始30分前までに当該審判員に希望する支柱の位置申告をすること。もし、競技者がその位置を変更したい時は直ちに当該審判員に申告すること。
- ④走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。ただし、審判長の指示によって変更する場合もある。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
中学男子走高跳	1m10/1m40	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	中学男子は 170cm以降 中学女子は 145cm以降 3cmずつ上げる
中学女子走高跳	1m00/1m30	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	
高校一般男子走高跳	1m60/1m80	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	高校一般男子は 200cm以降 高校一般女子は 170cm以降 3cmずつ上げる
高校一般女子走高跳	1m30/1m60	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	
男子四種走高跳	1m10/1m40	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	中学男子は 170cm以降 中学女子は 145cm以降 3cmずつ上げる
女子四種走高跳	1m00/1m30	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	
中学男子棒高跳	2m00/2m50	2m00	2m20	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	以降 10cmずつ
中学女子棒高跳	1m40/2m00	1m60	1m80	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	2m50	

8. 混成競技について

両日共に第1種目のみ、招集時刻に従い、招集所にて競技者係より招集を受けた後、現地まで移動すること。第2種目以降の招集は現地にて行う。

9. 競技からの除外

競技運営上必要と認めた場合、審判長がレース中の競技者を中止させることがある。

10. リレー競技について(リレーオーダー用紙はTICに準備)

- ①リレー競技に出場するチームはラウンド毎に、リレーオーダー用紙を1部作成し、**招集完了時刻の60分前までにTICに提出すること。**(顧問のサインを忘れないこと)
- ②招集は各スタート場所で行う。
- ③リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニフォームを着用することが望ましい。
- ④**バトンとダッシュマークは、主催者側で用意したものを使用する。**(バトンは第1走者のみ。)

11. 用 器 具

- ①棒高跳のポール以外は競技場備え付けのものを使用する。
- ②スパイクの長さは、走高跳は12mm、その他は9mm以下とする。
- ③**シューズ(スパイク・ランニングシューズを含む)の厚さについての今大会の規定は以下の表に準ずる。**

種目	靴底の最大の厚さ (TR5.5, TR5.13.3)	要件・備考
投擲種目・跳躍種目 ※三段跳を除く	20mm	全投擲種目と高さを競う跳躍種目に適用。 全投擲種目と跳躍種目で靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 ※ハードル種目を含み、800m未満の種目	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて、適応する。
トラック種目 ※800m以上の種目	25mm	リレーにおいては各走者が走る距離に応じて適応する。

12. 番組編成及び結果発表

- ①各種目の結果発表は、アナウンスで行わず、競技場正面入り口外の掲示スペースにて掲示する。
- ②各種目の入賞は8位までとし、賞状を授与する(競技終了後、アナウンス室へ取りに来ること)。

13. 抗 議

日本陸上競技連盟競技規則 TR 8 による。

14. その他

- ①プログラム記載事項に訂正がある場合は、顧問が取りまとめ、競技役員打ち合わせ開始前までに訂正内容を持って本部まで申し出ること。
- ②セパレートレーンを使用する競技においては、フィニッシュ後は該当レーンに沿って走り抜けること。
- ③ホームストレート側(本部前からフィニッシュライン付近まで)を通行しないこと。
- ④競技場内外のアスファルト部分へはスパイクで入らないこと。また、競技場内の芝生内、スタート位置後方、フィニッシュ位置後方に立ち入らないこと。
- ⑤競技中に発生した事故などについては応急処置を主催者側で行うが、以後の責任は負わない。また、体調が悪くなった者は医務員の指示に従うこと。
- ⑥更衣室では更衣のみを行い、私物等を置かないこと。
- ⑦各自の持ち物については自分自身で責任をもって管理し、盗難に注意すること。
- ⑧ゴミについては、各自必ず持ち帰り、競技場・駅・バス停など公共の場に捨てないこと。
- ⑨大会主催者から指定された場所以外でのテント張りは禁止する。
- ⑩テントやタープは、ロープなどを使って手すりなどに固定し、強風で飛ばないようにすること。
- ⑪横断幕を設置する場合は、メインスタンド最上段の手すりのみとする。
のぼりを設置する場合は、メインスタンドサイド階段フェンス部分のみとする。
- ⑫スターターより「ON YOUR MARKS」がかかったら、選手が集中できるように競技場全体で音を出さないように配慮すること。スタートの付近では特に気をつけること。
- ⑬競技者が号砲前にグラウンド（地面）及びフットプレートから手や足を離した場合、不正スタート（フライング）となり、当競技者は失格となる。
- ⑭熱中症予防策として、日本スポーツ協会が定める熱中症予防運動指針に従い、WBGT31℃を超えた場合には競技を中断し、本部で協議する。原則として WBGT31℃以下になるまで競技は中断とし、中断時間が2時間を超える場合には本大会の以後の競技については中止とする。
- ⑮生徒による携帯電話・スマートフォン・ビデオカメラ・音楽再生機器等の電子機器の使用は禁止とする。保護者の撮影はメインスタンドのみ可とする。顧問による撮影は指導に生かすための撮影のみ可とする。なお、棒高跳びに関してはバックストレート側テニスコート脇園路からの撮影を可とする。